

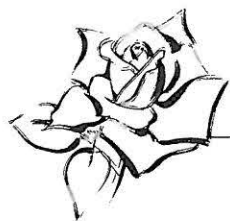


Title	～エイズ対策に携わる青年海外協力隊～
Author(s)	籠田, 綾
Citation	目で見えるWHO. 2011, 47, p. 18-18
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/86770
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka



～エイズ対策に携わる青年海外協力隊～

独立行政法人 国際協力機構 (JICA) 青年海外協力隊事務局 籠 田 綾

独立行政法人国際協力機構 (JICA) は、日本の国際貢献の重要な柱である政府開発援助 (ODA) を一元的に行う機関として、開発途上国への国際協力を行っている。「すべての人々が恩恵を受けるダイナミックな開発」というビジョンのもと、世界約 100カ所の拠点を窓口にして世界 150カ国以上の国と地域で事業を展開。各国事情にあわせて、人材育成からインフラストラクチャー整備まで幅広い分野において、開発途上国が抱える課題解決を支援している。そのなかでも、青年海外協力隊派遣をはじめとするボランティア事業は 1965 年に開始され、これまで 122カ国に 4 万人を超えるボランティアを派遣してきた。現在も、3325 名 (2010 年 8 月 30 日時点) の JICA ボランティアが世界 85カ国で活動している。

「アフリカの健康、水、いのち」というテーマは、HIV/エイズをなくしては語れない。世界各地、特にアフリカで人々の生活に大きく影響している HIV/エイズは、国際社会や各国政府、市民社会による様々な取り組みにより、UNAIDS の “GLOBAL REPORT” (注 1) によると新規 HIV 感染が 1999 年以降 19% 減少するという一定の成果も見られるものの「HIV/エイズの蔓延を 2015 年までに食い止め、その後減少させる」という MDGs (ミレニアム開発目標) (注 2) 達成が難しいとされる国もあり、国際社会が掲げたエイズ治療・ケア・予防への普遍的アクセスという目標も達成されないままである。そして何より、HIV は今も人々の生活と共にあり、その影響を受けている人々がいる。

JICA はこうした現状を少しでも改善すべく様々な協力を行っており、その一環としてエイズ対策に携わる青年海外協力隊派遣も行っている。HIV/エイズは貧困、ジェンダー・セクシュアリティ、経済、文化等と複雑に関わるため、それに対するアプローチも一様ではない。そのため、「エイズ対

策」職種として直接予防啓発にかかわるだけではなく、エイズによって孤児になった子供たちのサポートを行ったり (「養護」職種)、HIV に関わるデータや統計の整理を行ったり (「PC インストラクター」職種) するなど、様々な側面からエイズ対策に携わっている協力隊員がいる。

人々の健康、そしていのちに影響を与えている HIV/エイズの現状について、その国の人々と共に暮らす協力隊員は何を感じ、どのような活動を行っているか、2 年間の活動を終えた 2 名の文章を通じ少しでも知っていただき、アフリカ各国の人々、そしてそこで活動する協力隊員たちに思いを馳せていただければ幸いである。

(注 1)

http://www.unaids.org/globalreport/documents/20101123_GlobalReport_full_en.pdf

(注 2)

<http://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/oda/doukou/mdgs.html>